



2015年7月30日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第123号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 第26回 IUGG 総会出席と IISEE 同窓会の開催
- ネパール地震被害現地調査
- 中南米研修 アクションプラン発表 & GM & 親善パーティー

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

E ラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

第26回IUGG総会出席とIISEE同窓会の開催

国際地震工学センター 林田 拓己、芝崎 文一郎

The International Union of Geodesy and Geophysics(略称:IUGG)は、8つの協会と3つの委員会から構成された測地学と地球物理学に関する最も大きな国際的な学術団体であり、国際科学会議(ICSU)の加盟団体の一つとして位置づけられています。IUGG 総会は4年に一度開催され、今回の総会はチェコのプラハで6月22日から7月2日まで開催されました。現在の IUGG 会長は、IISEE の同窓生である Harsh Gupta 博士(1966-67 地震学コース:インド出身)が務められています。IISEE からは芝崎上席研究員と林田主任研究員が6月26日から7月1日の期間に参加し、それぞれの研究成果を発表しました。



プラハの町並み



(右から)Guendel 博士、Protti 博士、Gupta 博士、芝崎上席研究員、林田主任研究員

また、6月30日の昼休みに、会場近くのレストランで IISEE 同窓会を開きました。同窓会には Harsh Gupta 会長、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)暫定技術事務局国際監視制度(IMS)前局長の Federico David Guendel Umana 博士(1975-76 地震学コース:コスタリカ出身)、ラテンアメリカ・カリブ海地震学連合(LACSC)会長の Marino Protti 博士(1983-84 地震学コース:コスタリカ出身)が参加されました。

IISEE 研修参加当時の状況や近況についてお話を伺い、楽しい時間を過ごしました。ご多忙中、同窓会に集まっていたいただいた元研修生の皆様に感謝いたします。

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

ネパール地震被害現地調査

2015年6月25日～28日

Mr. Harish Chandra Lamichhane (ネパール、地震工学コース)

破壊的な地震から2ヶ月後、現地調査のためネパールを訪問しました。このような貴重な機会を与えて頂いたことに対し、安藤尚一教授、政策研究大学院大学、建築研究所・国際地震工学センター及びJICAに感謝致します。現地調査は安藤教授に同伴したものです。

私の個人研修のテーマは、地震後の建物応急危険度判定に関するものです。ネパールにおいては、RVDA (Rapid Visual Damage Assessment)として知られてい



ます。ネパールでの滞在中、建物の応急危険度判定の実施されたカトマンズバレー内での5つの地方自治体及びこれらとは別の関係組織を訪問しました。

日本においては、関連する考え方のほとんどが1981年に準備され、1985年には基準案が作成されていました。ネパールにおいては、今回が初めての工学的視点に立った経験となります。ネパール技術者協会は、都市開発

及び建築建設局の指導と、NSET、SONA等、関係技術協会の協力の下、この種の取り組みにおいて重要な役割を果たしました。

RVDAは基本的には家主からの要望に基づき実施されます。地方自治体がそれぞれの管轄する範囲においてRVDAを実施すると同時に、他の関係機関もまた同じ範囲においてRVDAを実施しています。私は、そこに一元化の欠如が存在すると考えます。

破壊的な地震が共同体を襲った時には、救助、初動支援、消火、建物の応急危険度診断のような活動が重要となります。

私は、RVDAは今回が初めての経験であることと準備不足により、これがまだ子供の段階にあったと考えます。

我々は、この問題において、あらゆることを改善していかなければいけません。

注：ラリプートル市は、ネパールにて、ネパール国家建築基準を始めて運用した地方自治体の一つ。



(左から) ある事務所でのラリプートル市主任兼上級事務職 Tara Bahadur Karki 氏、安藤教授、及び筆者による応急危険度判定に関する討議の様子

中南米研修

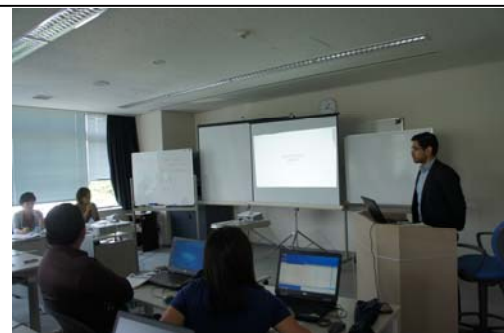
アクションプラン発表 & GM & 親善パーティー

国際地震工学センター 管理室 室長 山下 崇



楽しむのは今です。

7月10日(金)は、中南米研修の研修生や IISEE にとって、もりだくさんの1日でした。朝から中南米研修の研修生によるアクションプランの発表が IISEE にて行われ、15時まで続きました。途中、昼休みには食堂にて IISEE が企画した親善パーティーが開催されました。発表で緊張していた研修生も、おいしい料理と和やかな雰囲気の中、リラックスした様子でした。



アクションプラン発表

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



ジェネラルミーティング

アクションプランの発表が終わった15時からは、ジェネラルミーティング(GM)を実施しました。GMでは、研修生は講義や日頃の生活などについての感想や気が付いたことについて意見を述べました。

この日で、中南米研修の研修生は日本の滞在研修が終了となり、その後エルサルバドルに渡っての現地講義、そして閉

講式となりました。

エルサルバドルでは、IISEE からは前半の週は犬飼上席研究員、後半の週は横井センター長が出向き、講義を行いました。



親善パーティーでの集合写真